■山本發次郎　　**佐伯祐三らの才能を見出した異端の蒐集家で，のち中之島美術館の収蔵品。独自の美意識，作家論も発表した。**
やまもとはつじろう
国民之友始・1887＝　　岡山県上房郡水田村で，地主戸田嘉平，すがの三男に生まれる。本名戸田清。

帝国憲法発布1889＝ 2歳：
戸田家は，徳川時代から文人墨客の出入りがあった豪農で，**_書画骨董などを集める趣味人であった父や，**

のちに婿養子として入ることになる山本家は，幕末に丹波から神戸へ，のちに大阪に出て商売を始め，明治以降は，山本亀太郎が茶の貿易で神戸財界において成功し，
日清戦争始・1894＝ 7歳：その子の初代山本發次郎が，大阪でメリヤス肌着の製造販売業を起した。

白馬会・・・1896＝ **9歳：**

生地の小学校から，

日露戦争終・1905**＝18歳：**岡山県立高梁中学校を卒業して，東京高商(現在の一橋大学)に進学。上京して，現在の中央大学に通う次兄基治とともに住み，**_白馬会研究所に通って油彩画を描く次兄から，影響を受けたらしいが，**

ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝21歳：卒業し，鐘淵紡績に勤める。

明治天皇没・1912＝25歳：

第一次大戦始1914**＝27歳：**
21ヶ条要求・1915＝28歳：**_大阪船場のメリヤス業山本發次郎の婿養子に迎えられ，長女はなと結婚。**
民本主義・・1916＝29歳：長男海一が誕生。
ロシア革命・1917＝30歳：長女芳子が誕生。
この間，**_京都法輪寺(通称達磨寺)の僧後藤伊山の影響で，書に通じるようになり，**

大暴落・・・1920＝33歳：次男清雄が誕生。この頃日本絹綿紡績会社取締役を務める。**＊家督を相続し，山本發次郎を襲名すると，**
原敬首相暗殺1921＝34歳：
水平社結成・1922＝35歳：次女美代子が誕生。多くの大阪商人同様，この頃**_欧米を旅行するなどして，蒐集活動も本格化，**
関東大震災・1923**＝36歳：**

円本時代始・1926＝39歳：兵庫県武庫郡精道村(現在の芦屋市東山町)に，**_竹腰健造設計のスパニッシュ風の自宅を建て，美術品を飾って楽しみ，やがて{白雲荘}と名づける。**
共産党事件・1928＝40歳：佐伯祐三がパリで客死。
世界恐慌・・1929＝42歳：倉敷の玉泉寺に隠退した**_寂厳に魅せられて，書の蒐集を開始。審美的観点とは別に，御宸翰を200点ばかり蒐集していたことが，のちに，コレクションの多くが戦火を免れることに寄与することになる。**
海軍軍縮条約1930＝43歳：二女八重子が誕生。
満州事変・・1931＝44歳：株式会社山發商店を起こす。
五一五事件・1932**＝45歳：＊画商が持ち込んだ佐伯祐三の「煉瓦焼」ほかに衝撃を受けて，佐伯作品の蒐集を開始，**

芥川直木賞始1935＝48歳：山發商店から山發貿易を独立させ，染毛料製造販売を始める。**_この間，三輪田米山を知り蒐集開始。銀座画廊主催の佐伯祐三回顧展に山發コレクションを出品，ともに出品した佐伯家の所蔵作品をすべて購入，**
日中戦争始・1937＝50歳：**_早くも百八点を所蔵して，東京府美術館で，個人蒐集としては破格の{山本發次郎氏所蔵佐伯祐三遺作展覧会}を開催。同時に限定五百部の豪華な「山本發次郎氏蒐蔵佐伯祐三画集」を座右宝刊行会より出版し，初の論考となる「佐伯祐三遺作蒐集について」ほかの文章を発表したのに続いて，{中央公論}に「書道私論」を発表，アカデミスムを激しく否定し，寂厳，良寛ら近世高僧の墨蹟を論じて，独自の美意識を表明，**
健保+総動員 1938＝51歳：{中央公論}に，書を論じる「白雲荘放談」を発表。前年の展覧会場で画家山尾薫明を紹介され，バリ島での制作を支援，山尾によるバリ島から赤絵，安南などの陶器や東南アジアの染織を山發コレクションに加えるとともに，以後コレクションの管理を任せる。また，展覧会場で**_画家里見勝蔵と出会い，書を語れる友人として親交，「白隠芸術の特殊性」を論じた手紙を出し，**
第二次大戦始1939＝52歳：武者小路実篤と対談。**_大阪市立美術館で，山發コレクション百二十二点による{佐伯祐三遺作展覧会}を開催し，{大阪毎日新聞}に「佐伯祐三の芸格」を発表。**
大政翼賛会・1940＝53歳：{大阪毎日新聞}および{大法輪}に**＊「白隠禅師の絵画表現}を発表するなど，白隠への傾倒も著しい。**
日米開戦・・1941**＝54歳：**
創価学会検挙1943＝56歳：山發商店を山發工業株式会社と改名。
敗戦・・・・1945＝58歳：空襲のため，山發工業の大阪本店，東京支店が焼失。**_空襲で自宅を焼失して，多くの美術品を失うが，御震翰を疎開させるという大義名分によって，佐伯祐三，白隠など主要なコレクションは，軍のトラックで岡山の実家に運んでいたため戦禍をまぬがれた。**
新憲法公布・1946＝59歳：山發貿易を山発産業株式会社と改名し，戦後復興へと乗り出す。東山町に自宅を再建。**_「書道私論」で取り上げた無名の書家三輪田米山の書の蒐集に本腰を入れるようになり，**
朝鮮戦争始・1950**＝63歳：_三輪田米山の書蒐集のため，翌年にかけて，松山に長期滞在，有力者の協力で{三輪田米山顕彰会}設立，**
独立回復・・1951＝64歳：子規礼賛の「正岡子規」。松山の山發コレクションを中心とした美術館の建設を松山市長に提言。長谷川三郎との手紙のやり取りで，将来日本の書を海外に紹介することを語り，**＊{墨美}に「無名の書聖　三輪田米山」を発表するなどして，米山の「遺墨集」の刊行を目論むも叶わず，喘息のため，没した。**
読売新聞の懸賞論文に応募する予定だった「独立日本の行く道」の草稿が遺された。山發コレクションは，1983年に大阪市に寄贈され，それを中心に，2022年に大阪中之島美術館が開館。

河崎晃一監修「山本發次郎コレクション～遺稿と蒐集品にみる全容」，